

漁況予報 いわし

第135号

2006年5～6月漁期
(2006年5月12日発行)

＝ 概況 ＝

【まいわし】

主要定置網におけるマイワシ総漁獲量は、3月が12トン、4月が5トン程度で、前年同期を若干上回りましたが、依然として低調な状況が続いております。

各定置網とも、小羽マイワシ主体に中羽・大羽マイワシが少し混じる組成となりました。

佐島地区のまき網は、まとまった来遊がなかったことから、2ヶ月を通して漁獲はありませんでした。餌イワシでは、4月に単発的にカタクチイワシに混じって少量のヒラゴの入網が見られました。

また、3月のシラス漁におけるマシラスの混獲率は低く、今後ヒラゴとして定置網に入網する可能性は低いでしょう。

【かたくちいわし】

主要定置網における3月のカタクチイワシ総水揚げ量は680トンで、前年同期(570トン)を上回る水揚げとなりました。4月に入ると1000トン(速報値)を超え、非常に高水準の水揚げ量となりました。また、鎌倉・腰越・江の島地区の3統で総水揚げ量の半数以上を占めていました。

佐島地区のまき網は、断続的に餌イワシとして漁獲しました。

魚体は9-12cm台の小型～大型成魚が主体で、前年同期に数多く見られた肥満型の個体は減少していました。

【しらす】

3月11日に解禁した相模湾のシラス漁ですが、湾東部では比較的安定した漁模様でスタートしましたが、4月に入っても昨年のような漁獲量の伸びは見られませんでした。

また、昨年と同様に平塚を中心とした湾奥部の漁獲量が極端に少なくなりました。この要因として、湾内の潮の流れが通常の反時計周りではなかったこと等が考えられます。

漁獲物の魚種組成は、3月、4月ともにカタクチシラスが殆どを占めました。

前号でも記載したように、春シラスの親である大型成魚が少ないので、引き続き沖からの大規模な来遊は見込めないと考えられます。ただし、黒潮は離岸型の直進型を維持しており、4月末に湾内への暖水波及があったことにより漁模様は好転への兆しを見せしており、今後の黒潮の動向が鍵となりそうです。

＝ 予報 ＝

まいわし

今漁期は、中羽イワシ(1歳魚2005年級群)が漁獲の主体となるでしょう

今漁期の水揚げ量は、定置網を主体に約40トンと予測されます。

*縦軸：主要定置網+まき網の水揚げ量

かたくちいわし

今漁期は、小型成魚及び大型成魚が漁獲の主体となります。

今漁期の漁獲量は、約1200トンと予測されます。

しらす

今漁期は、4～5月生まれのカタクチシラスが漁獲の主体となります。

大型成魚資源量指数値は低いため大規模な来遊は見込めないでしょう。

今漁期の漁獲量は、約110トンと予測されます。

また、カタクチイワシ成魚も多く相模湾内に滞留しており、これらがシラス漁場に頻繁に来遊すると、予測値を大きく下回ることも考えられます。

過去5年の5・6月漁期の漁獲量と今漁期の予測量

